

🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 6月の園だより 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

2019年6月

園長 野田弘之

主 題：「育つ」

聖書のことば：「初めに神が天と地を創造した」

(創世記1：1)

今年の大変連休は、例年になく初めての10連休ということで、連休明けの園児たちの登園を大変心配しておりましたが、おかげさまでほとんどの子どもたちがすんなり登園することができました。4月にAクラスさんが、木市で寄せ植え体験をしたプランターの花々も、しっかり根付いてきれいなペチュニアの花を咲かせています。また、園庭のアジサイもつぼみが膨らんできました。いよいよ6月です。

登園した子どもたちは、体力づくりのため、まず園庭をランニングします。そのあと、マリア様のご像の前でお祈りをして、各保育室に入ります。そして、各自「おしごと」に取り組みます。その子の発達段階や興味関心に従って、いろいろな「おしごと」があり、どの子どもも大変熱心に取り組んでいます。モンテッソーリ教育の重要な部分です。モンテッソーリ教育の大事な5つの領域「日常生活」「感覚」「言語」「数」「文化」の中で、「日常生活」が冒頭に来ていることには、深い意味があるのだと思います。

新学期は、子どもたちの人間性の基礎作りをする大事な時期です。モンテッソーリ教育は「日常生活」の「おしごと」を通して、自分のことは自分でする習慣を身につけさせることに取り組みます。「三つ子の魂百まで」ということわざもあります。この時期に身につけた日常生活の習慣は、子どものこれからの人格形成の大きな要素となるといっても過言ではありません。

「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」は、松井秀喜選手の座右の銘であるといわれています。この言葉は、行動や習慣の変容は、人格形成に大きな影響があるということを言っているのだと思います。特に、「習慣が変われば、人格が変わる」という点に注目したいと思います。

モンテッソーリ女史は、自分が作り出した教育法を、どのように構成し、展開するかじっくり考えたことでしょう。その時、まずあるべきは「感覚教育」ではない。「言語教育」でもない。「日常生活」という領域を一番目において、自分のことは自分でする習慣を早い時期に身につけさせることが、人格教育＝「ペルソナ教育」の基本だと確信するに至ったのだと思います。

これからも一人ひとりの子どもと接していく中で、子どもたちが潜在的に持っている「成長する力」を育てていきたいものです。

園の教育と、家庭での教育が一体となって、すばらしい御子を育ててまいりましょう。